

2021年3月期 第2四半期 決算説明会

ウシオ電機株式会社
2020年10月30日

<免責事項>本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

Copyright © 2008 Ushio Inc., All Rights Reserved

未来は光でおもしろくなる

USHIO



- ① 新型コロナウイルス（COVID-19）による業績等の影響アップデート
- ② FY2020 2Q(実績) 及び 通期業績(予想)ともに**減収減益**となる内容
- ③ 通期業績予想の修正内容

- I. 新型コロナウイルス(COVID-19)影響のアップデート
- II. FY2020 2Q業績概況
- III. FY2020 通期業績予想
- IV. トピックス
- V. 参考資料

（注）2020年10月30日現在の情報記載

当社グループの主な拠点の最新状況（サマリー）

- 新型コロナ感染機会抑制を目的に、国内及び北米中心に在宅勤務・フレックスタイム制度活用促進を継続。
- 製造部門では、引き続き、映像関連事業で需要動向に合わせて生産調整を継続。
 - シネマ用ランプ（国内・フィリピン）：引き続き、生産調整を継続。
 - 映像装置（カナダ・中国）：引き続き、生産調整を実施。（人員調整も実施）

2020年度の業績影響

ビジュアルイメージング分野

- スライド12ページ「映像関連事業の最新状況アップデート」を参照。

エレクトロニクス分野

- 需要は想定通り推移も、一部光学装置の据付け・立上げ作業が遅れる可能性あり。

その他

- 紫外線殺菌・ウイルス不活化ユニット（Care222）は、9月より販売開始。（詳細はスライド20ページ）
- 業績予想には、今後の追加ロックダウン等による影響は見込んでいない。

-
- I. 新型コロナウイルス(COVID-19)影響のアップデート
 - II. FY2020 2Q業績概況**
 - III. FY2020 通期業績予想
 - IV. トピックス
 - V. 参考資料

売上高 : 520億円 (前年同期比 ▲299億円、▲36.6%)

新型コロナ影響により映像装置 及び シネマ用ランプ販売が大幅減少し減収

営業利益 : ▲10億円 (前年同期比 ▲59億円)

販管費抑制も、新型コロナによる減収影響により減益

親会社株主に帰属する

四半期純利益 : ▲19億円 (前年同期比 ▲49億円)

新型コロナ関連：営業外収益	雇用調整助成金_8億円
特別損失	事業構造改善費用_8億円
	臨時休業等による損失_8億円

※為替平均レート (FY20_1H) : 1USドル=107円

売上高・損益

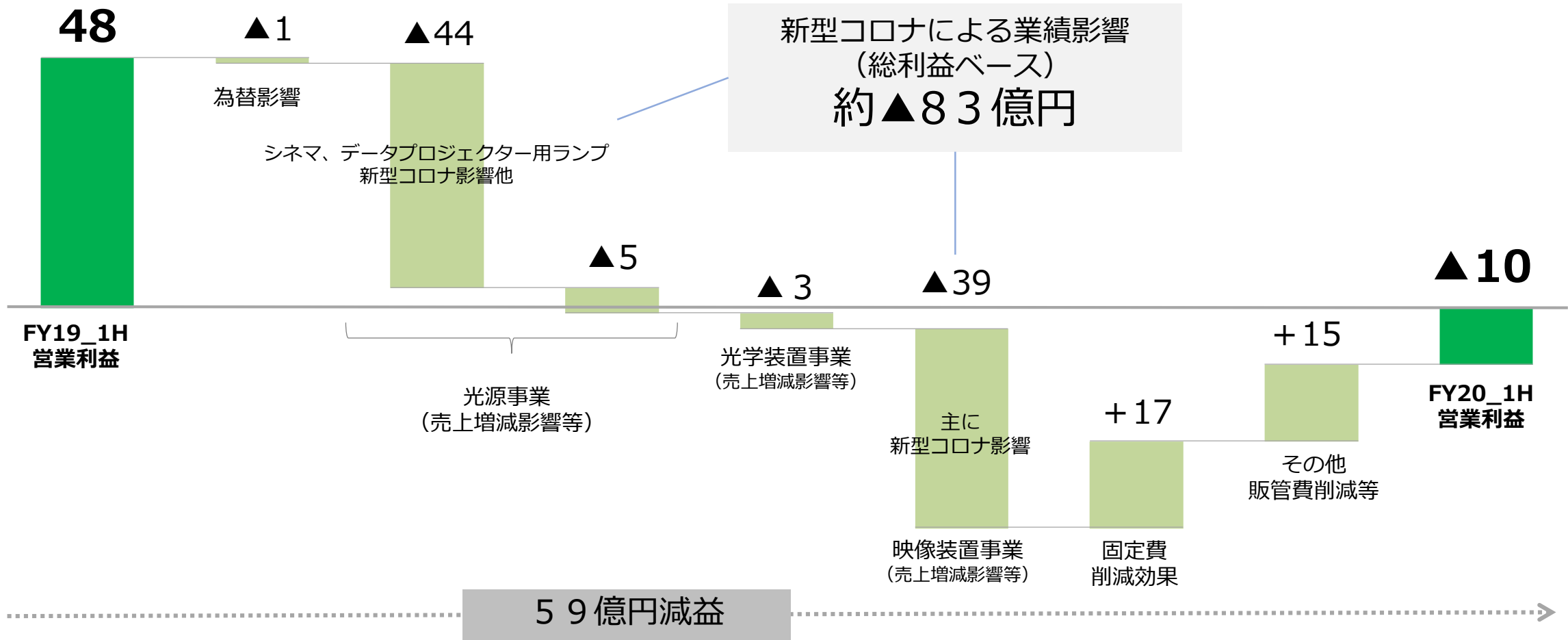
単位：億円		FY19 1H	FY20 1H	前年同期比		通期予想	
				増減	%	10.30 修正後の中央値	進捗率 (%)
売上高		820	520	▲299	▲36.6	1,190	43.7
営業利益又は営業損失 (△)		48	▲10	▲59	—	▲22	—
営業利益率(%)		5.9	▲2.1	▲8.0P	—	▲1.9	—
経常利益		58	4	▲54	▲93.1	2	161.6
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は四半期四純損失 (△)		30	▲19	▲49	—	▲32	—
EPS (円)		24.41	▲16.36	▲40.77	—	▲26.96	—
為替レート (円)	USD	109	107	▲2	—	105	—
	EUR	122	121	▲1	—	120	—

為替感応度：1円変動による影響額（通期）

	売上高	営業利益
対USD	約10億円	約1.5億円

前年同期比 営業利益増減分析

単位：億円



注：「光源事業（売上増減影響他）」～「その他販管費等」は、「為替影響」を除いた金額。

セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率

単位：億円		FY19 1H	FY20 1H	前年同期比	
				増減	%
光源事業	売上高	304	210	▲93	▲30.8
	営業利益	36	6	▲29	▲81.3
	営業利益率 (%)	11.9	3.2	▲8.7P	-
光学装置事業	売上高	180	163	▲17	▲9.5
	営業利益	3	1	▲1	▲51.4
	営業利益率 (%)	1.8	1.0	▲0.8P	-
映像装置事業 (注)	売上高	317	134	▲183	▲57.8
	営業利益又は営業損失 (△)	6	▲19	▲26	-
	営業利益率 (%)	2.2	▲14.4	▲16.6P	-
その他	売上高	17	12	▲4	▲29.2
	営業利益又は営業損失 (△)	0	▲0	▲0	▲229.1
	営業利益率 (%)	1.1	▲1.9	▲3.0P	-
全社・消去	営業利益	1	0	▲1	-

参考：光源事業の売上高内訳

	FY19 1H	FY20 1H	前年同期比	
			増減	%
放電ランプ	208	139	▲68	▲32.8
ハロゲン ランプ	53	39	▲13	▲25.9
固体光源	42	30	▲11	▲27.4

注：FY2019まで「装置事業—照明装置他」としていたものを含む

注：売上高は外部顧客への売上高を記載、営業利益率は外部顧客売上高に対する営業利益率

エレクトロニクス分野

<p>事業環境</p>	<p>エレクトロニクス関連市場の稼働状況はコロナ前のレベルに回復し、新規投資も回復基調</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FPD：投資主体は液晶からOLEDに移行。韓国の液晶パネル生産減も、中国の稼働は堅調 ・ 半導体・プリント基板等：5G向け投資が堅調も、スマートフォンなどの最終消費財の需要が不透明 	
<p>光源事業</p>	<p>数値は前1H比較 放_ UVランプ +0億円 +0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 韓国メーカーの液晶パネル生産減により、ランプ需要が減少 ・ 半導体、電子部品向け需要は、堅調に推移
<p>光学装置事業</p>	<p>UV装置 +14億円 +16%</p>	<p>電子部品及びCOF向け露光装置が減少も、最先端ICパッケージ基板向け露光装置が増加</p>
	<p>キュア装置 ▲33億円 ▲64%</p>	<p>液晶関連装置は、大型投資が一巡し販売減少</p>
	<p>その他 +2億円 +5%</p>	<p>EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源の販売増加</p>

注：記載の金額は、「売上高」の前年同期比増減額及び率

ビジュアルイメージング分野

<h3>事業環境</h3>	<p>新型コロナの影響により、ビジュアルイメージング関連市場は低調に推移</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上期後半より徐々に映画館再開の動きも、主要地域である北米や中国の稼働は限定的 ・ アミューズメントパークなど商業施設は、アジアから徐々に再開も投資は低調。各イベント自粛は継続 ・ 新型コロナ影響により、一般プロジェクターやO A 機器需要が鈍化 	
<h3>光源事業</h3>	<p>数值は前1H比較 放_ シネマ用ランプ ▲51億円 ▲81%</p>	<p>新型コロナによる全世界的な映画館休業及びスクリーン稼働率低迷により、リプレイス需要が減少</p>
	<p>放_ データ プロジェクター用ランプ ▲19億円 ▲58%</p>	<p>新型コロナ影響によりプロジェクター需要や稼働が減少し、ランプ需要が減少</p>
	<p>ハ_ O A用ランプ ▲8億円 ▲29%</p>	<p>新型コロナ影響によりO A 機器需要は鈍化し、ランプ販売本数が減少</p>
<h3>映像装置 事業</h3>	<p>シネマ ▲98億円 ▲62%</p>	<p>全世界の映画館休業の長期化により、投資意欲減退でプロジェクター販売が減少</p>
	<p>一般映像 ▲82億円 ▲55%</p>	<p>イベント、アミューズメントパークなどの商業施設向け案件が減少</p>

事業環境（最新）

（注）2020年10月30日現在の情報記載

シネマやイベント関連を中心に、新型コロナにより厳しい状況が継続

➤ シネマは、新型コロナによる影響が継続

- ・ 配給側が、ハリウッド大作コンテンツの配給延期を次々と発表。北米などのシネマチェーンを中心に、一時閉鎖や営業体制の変更を余儀なくされている。

- ・ 主要地域動向

北米 : 徐々に再開の動きも、州ごとに日々方針が変わり、現在も一部地域は閉鎖・再開未定の状態が続く

中国 : 多くの地域で再開するも稼働制限あり

EMEA : 感染第二波の影響で再度映画館閉鎖の措置をとる国が増加中

➤ 一般映像は、イベント関連は自粛により厳しい状況継続も、それ以外は緩やかに回復傾向。

シネマ用ランプの生産体制について

10月以降も一定の生産調整体制を維持

映像装置「構造改革」の取り組み

映像装置において約300人規模の人員削減を実施・完了

→ 事業構造改革費用（特別損失）8億円を計上。経費削減効果（製造費及び販管費）は下期以降。

-
- I. 新型コロナウイルス(COVID-19)影響のアップデート
 - II. FY2020 2Q概況
 - III. FY2020 通期業績予想**
 - IV. トピックス
 - V. 参考資料

業績予想の修正

映像関連事業を中心に引き続き不透明な状況が継続する見込みから、売上高のレンジ幅を上限、下限とも下方修正。一方、経費削減等により収益性の改善を推進。

単位：億円

	FY20 通期予想				差異		FY19 通期	差異					
	今回		前回										
売上高	1,150	~	1,230	1,250	~	1,350	▲100	~	▲120	1,590	▲440	~	▲360
営業利益又は営業損失 (△)	▲40	~	▲5	▲50	~	5	+10	~	▲10	66	▲106	~	▲71
営業利益率 (%)	▲3.5	~	▲0.4	▲4.0	~	0.4	+0.5P	~	▲0.8P	4.2	▲7.7	~	▲4.6
経常利益又は経常損失 (△)	▲15	~	20	▲35	~	20	+20	~	-	87	▲102	~	▲67
親会社株主に帰属する 当期純利益又は当期純損失 (△)	▲50	~	▲15	▲75	~	▲20	+25	~	+5	89	▲139	~	▲104
EPS (円)	▲41.48	~	▲12.44	▲62.23	~	▲16.59	▲20.75	~	▲4.15	73.25	▲114.73	~	▲85.69
ROE (%)	▲2.5	~	▲0.8	▲3.8	~	▲1.0	0.2	~	1.3	4.3	▲6.8	~	▲5.1
為替レート (円)	USD	105		105		-				109	▲4		
	EUR	120		120		-				121	▲1		

セグメント別 売上高、営業利益 予想／2Hの見込み

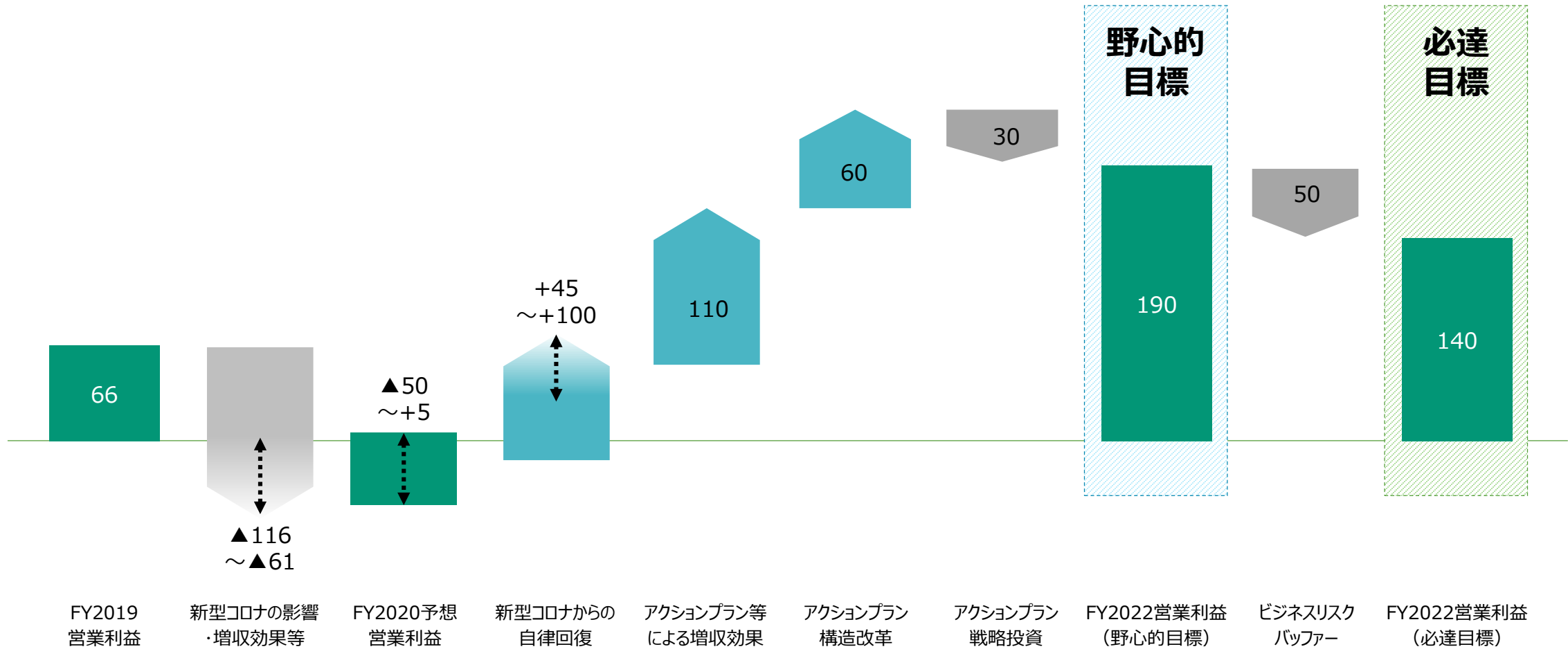
単位：億円

		通期予想 (修正後)	1H (実績)	進捗率※ (%)	2Hの見込み
光源事業	売上高	440 ~ 470	210	46.3	<ul style="list-style-type: none"> ・シネマ用ランプ：不透明な事業環境継続 (上限) 3Qより再開範囲が拡大。スクリーン稼働も回復傾向 (下限) 3Qから4Qにかけて、緩やかに再開範囲拡大もスクリーン稼働は低調のまま推移 ・UVランプ：半導体を中心に需要は緩やかに増加 ・データプロジェクター用ランプ：低調 OA用ランプ：緩やかに回復傾向
	営業利益	5 ~ 15	6	67.8	
	営業利益率	1.1% ~ 3.2%	3.2	-	
光学装置事業	売上高	400 ~ 420	163	39.9	<ul style="list-style-type: none"> ・最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置は、販売増加 ・EUVマスク検査用EUV光源は、計画通り堅調に推移 ・プリント基板向け直描式露光装置は、5G需要で緩やかに拡大 ・前期に拡大したCOF露光機は、投資一巡し低調
	営業利益	0 ~ 10	1	32.2	
	営業利益率	0.0% ~ 2.4%	1.0	-	
映像装置事業	売上高	270 ~ 300	134	47.1	<ul style="list-style-type: none"> ・映画館はシネマ用ランプと同様、徐々に映画館再開も、不透明な事業環境継続により投資は鈍化傾向が続く ・アミューズメントパークなど商業施設や企業向け投資は徐々に再開も例年を下回り推移 ・イベント自粛は継続 ・販売拠点の見直しなどの対策は継続
	営業損失(△)	▲45 ~ ▲30	▲19	-	
	営業利益率	▲16.7% ~ ▲10.0%	▲14.4	-	
その他	売上高	40	12	30.2	
	営業利益	0	▲0	-	
	営業利益率	0.0%	▲1.9	-	
合計	売上高	1,150 ~ 1,230	520	43.7	<ul style="list-style-type: none"> ・追加ロックダウンは見込んでいない
	営業損失(△)	▲40 ~ ▲5	▲10	-	
	営業利益率	▲3.5 ~ ▲0.4%	▲2.1	-	

※進捗率は通期予想の中央値で試算

新中計 営業利益 想定増減益シナリオ

(億円)



営業利益（億円）	新中計 計画値	今期（FY20） 進捗見込み	コメント
新型コロナ影響・増収効果等	▲116～▲61	▲106～▲71	若干、想定を下回り推移も、経費削減を実施
新型コロナからの自律回復	+45～+100	-	自律回復は、来期以降
アクションプラン			
① 増収効果	+110	中央値 +10 (+15～+5)	<ul style="list-style-type: none"> 光学装置の有望製品は計画通りに推移。当下期より業績への貢献度が高まる見込み Care222は9月に計画通りユニットタイプ販売。生産体制、他社との事業アライアンスも計画通りの進捗
② 構造改革	+60	+20	<ul style="list-style-type: none"> 映像装置の構造改革（人員削減）実施。当下期より効果発現（来期以降 約20億円/年） 光源事業の構造改革各施策は来期以降
③ 戦略投資	▲30	▲5	<ul style="list-style-type: none"> EUV光源の性能向上 最先端ICパッケージ次世代ロードマップ対応 Care222量産に向けた設備投資等

1株当たり配当額 及び 配当性向

2021年3月期の期末配当金（予定）は、安定的な利益還元方針から、**1株当たり配当額26円**を据え置き



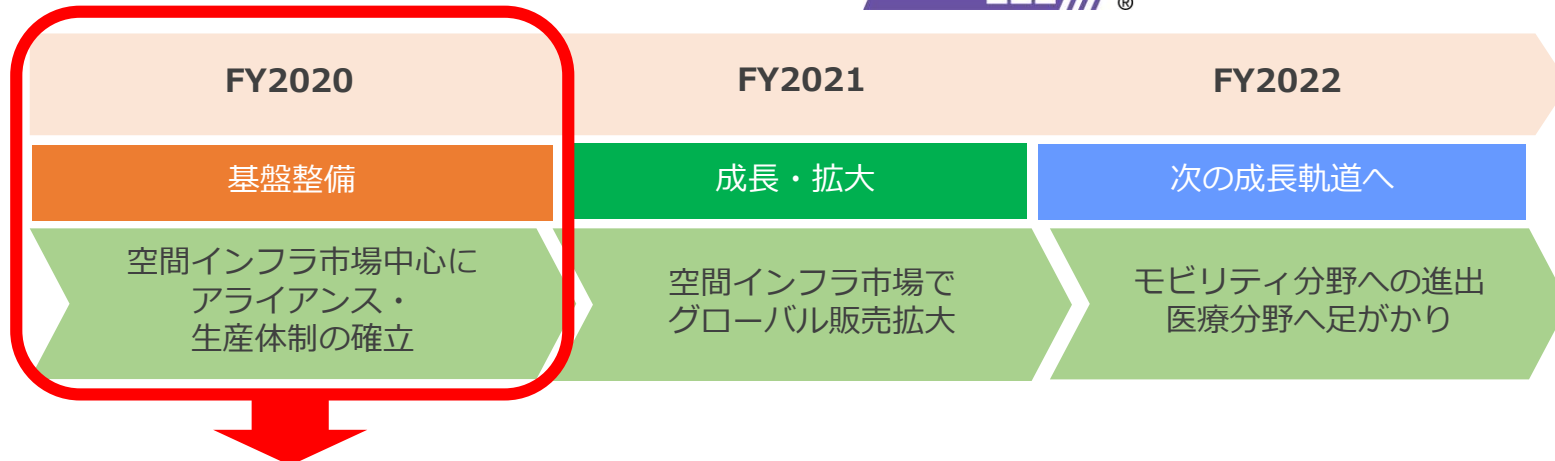
自社株買い

自己株式の取得は機動的に実施。保有する自己株式の上限は、発行済株式総数の5%を目途とし、その部分を上回る自己株式については毎年消却。

-
- I. 新型コロナウイルス(COVID-19)影響のアップデート
 - II. FY2020 2Q概況
 - III. FY2020 通期業績予想
 - IV. トピックス**
 - V. 参考資料

殺菌・ウイルス不活化ソリューションCare222について

■ 中計3年間の展開と現在のフェーズ **Care 222**



- 2020年9月 ユニットタイプ販売開始
- 2020年12月 モジュール量産ラインの確立
- 2020年12月末 モジュール供給開始
- 2021年初旬 提携パートナーによる商品販売開始
- 順次、事業アライアンスを進め・製品開発・販売の基盤を確立

■ Care222の競争優位性

- ・ 有人環境下で「空間」と「環境表面」に付着したウイルスを不活化可能
- ・ コロンビア大学が持つ有人環境で使用可能な紫外線（222nm+特殊フィルター）特許の独占販売使用权を保有
- ・ 人体に有害な波長を除去し、222nm波長領域を出す製造品質面での信頼性

■ 重点課題

- ・ “紫外線”そのものに対する抵抗感を取り除き、Care222は有人環境下でも安全・安心だのご理解いただけるプロモーション活動
- ・ 殺菌・ウイルス不活化ソリューションとしての認知度の向上
- ・ 様々な空間での照射プロセスソリューションの継続蓄積



Care222に関する1Q決算（2020年7月31日以降）のプレスリリース情報

Christieによる CounterAct™ products with patented Care222® technology発表（北米限定）

リリース全文：<https://christiedigital.com/commercial-uv-disinfection/>（2020年10月28日発表）



加賀市医療センターが新型コロナウイルス感染防止対策の一環としてウシオの紫外線222nmウイルス抑制・除菌装置Care222 U3ユニットを30台導入

リリース全文：<https://www.ushio.co.jp/jp/news/1002/2020-2020/500701.html>（2020年10月7日発表）



有人環境下で使用できる紫外線「Care222」の新型コロナウイルス不活化効果を確認

リリース全文：<https://www.ushio.co.jp/jp/news/1002/2020-2020/500671.html>（2020年9月5日発表）



ウシオ電機と東芝ライテックが紫外線除菌・ウイルス抑制装置を共同開発。車載用／鉄道車両用、一般照明向け器具にて業務提携

リリース全文：<https://www.ushio.co.jp/jp/news/1002/2020-2020/500667.html>（2020年8月26日発表）



学校や商業施設などの有人環境下にそのまま設置・使用できる222nm紫外線ウイルス抑制・除菌ユニット「Care222 U3ユニット」の国内販売を開始

リリース全文：<https://www.ushio.co.jp/jp/news/1002/2020-2020/500668.html>（2020年8月26日発表）



-
- I. 新型コロナウイルス(COVID-19)影響のアップデート
 - II. FY2020 2Q概況
 - III. FY2020 通期業績予想
 - IV. トピックス
 - V. 参考資料**

USHIO

分割投影露光装置 (UX-5) 製造、販売

最先端・次世代パッケージの需要拡大

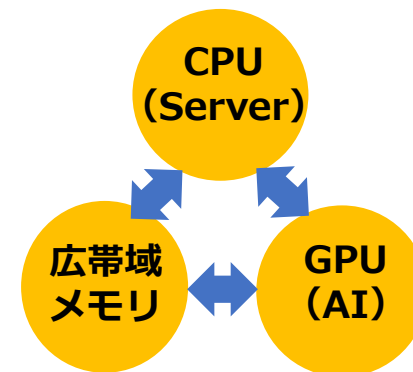


パッケージ基板
メーカー



IoT進展に伴う大容量かつ高速データ処理用
データセンター向けサーバーの需要増加

データセンター市場：年率20%以上成長（自社調べ）
⇒ 次世代パッケージ基板の採用拡大



●世界シェア： 100%維持

ハイエンドBGA基板露光市場（自社調べ）

●UX-5の強み（特長）

1. 大面積一括投影露光
→ 高生産性、低CoO
2. マスクワーク非接触
→ 歩留まり向上
3. 広い焦点深度
→ プロセスマージン・基板反り対応
4. 高い解像力・重ね合わせ精度
→ 配線ピッチ微細化・プロセスマージン

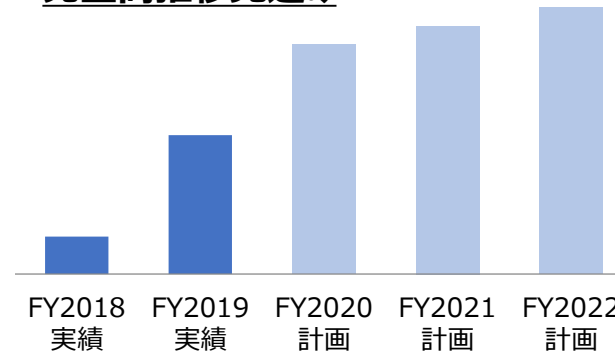


分割投影露光装置 (UX-5) 販売動向

FY2019 (実績)
下期より売上計上

FY2020 (見通し)
販売台数拡大

売上高推移見込み



USHIO

次世代半導体量産用EUV光源
開発、生産、販売



光源販売
メンテナンス



マスク検査装置メーカー
研究開発機関

EUVリソグラフィの技術開発進展による次世代半導体の量産化ニーズ

半導体デバイスメーカー等

検査、開発用光源のニーズ増大

ウシオのEUV光源が貢献

マスク検査用EUV光源需要増加
メンテナンス機会の増加

●ウシオのEUV光源開発の歴史

- 2000年 EUV光源開発開始
- 2001年 EUVA*設立、参画
*極端紫外線露光システム開発機構
- 2013年 リソグラフィ用途から撤退
- 2016年 オランダ研究機関TNOへEUV光源納入
- 2018年 検査用（評価用）初号機納入
- 2019年 量産ライン用初号機納入、検収

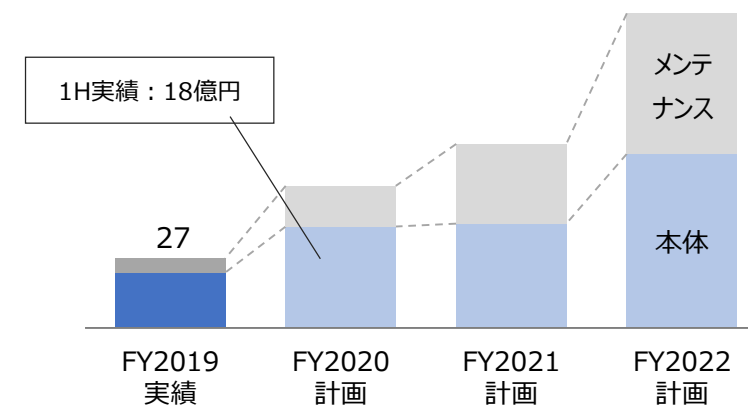
●ウシオの強み

半導体業界での長いビジネス経験

+

長年積み重ねたEUV技術
(コンパクト/高輝度/高出力)

売上高推移見込み (億円)



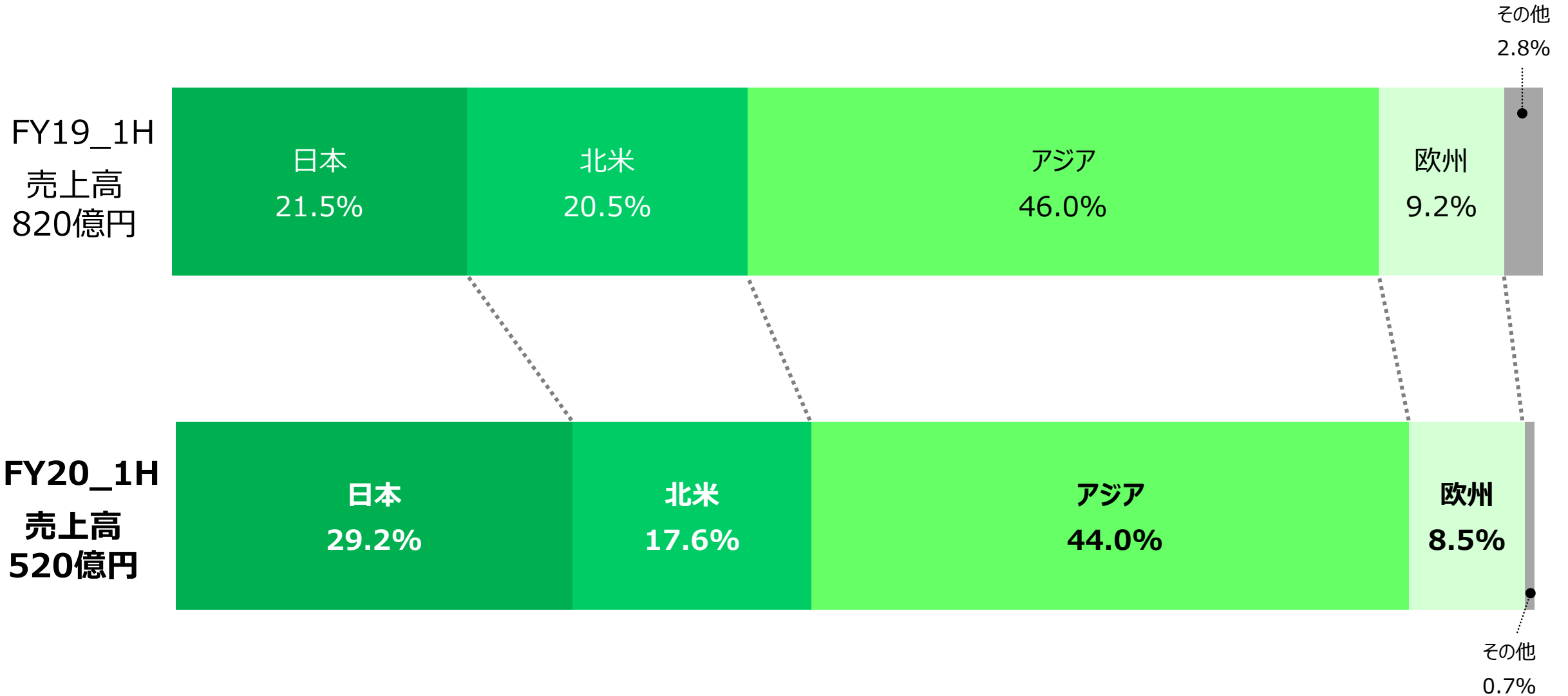
四半期推移《損益》

単位：億円		FY19				FY20		FY20 2Q - FY19 2Q		FY20 2Q - FY20 1Q	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減	%	増減	%
売上高		389	430	380	389	236	283	▲147	▲34.3	46	19.6
営業利益又は営業損失 (△)		21	27	14	3	▲7	▲3	▲30	-	4	56.2
営業利益 (%)		5.5	6.3	3.9	0.8	▲3.1	▲1.1	▲7.4P	-	2.0P	-
経常利益		29	28	25	3	3	0	▲28	▲97.3	▲2	▲76.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は 四半期純損失 (△)		12	17	57	1	▲10	▲9	▲26	-	1	13.2
EPS (円)		10.02	14.43	47.87	1.22	▲8.76	▲7.60	▲22.03	-	+1.16	13.2
為替レート (円)	USD	111	108	109	109	108	106	▲2	-	▲2	-
	EUR	124	120	120	121	118	124	4	-	6	-

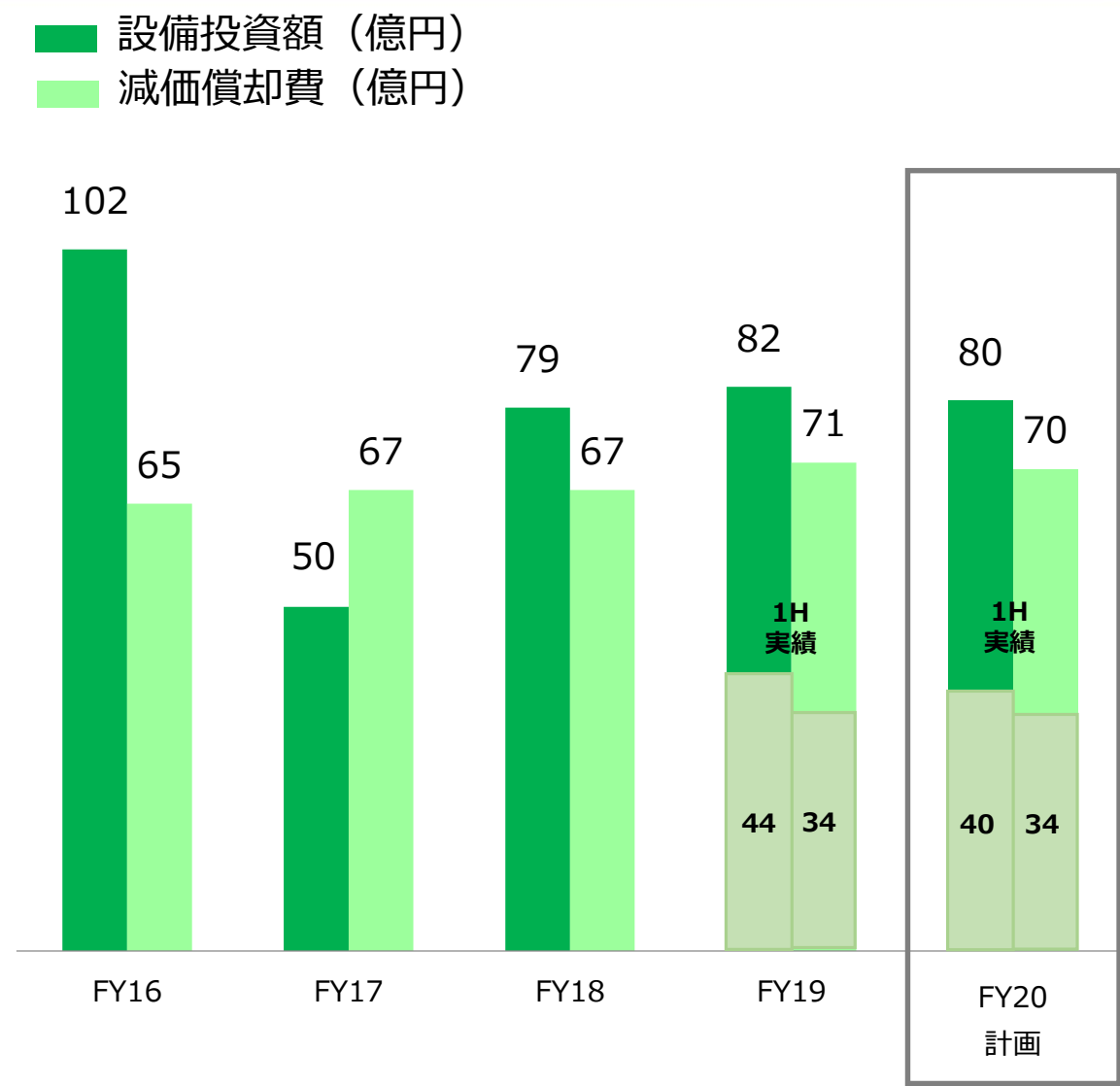
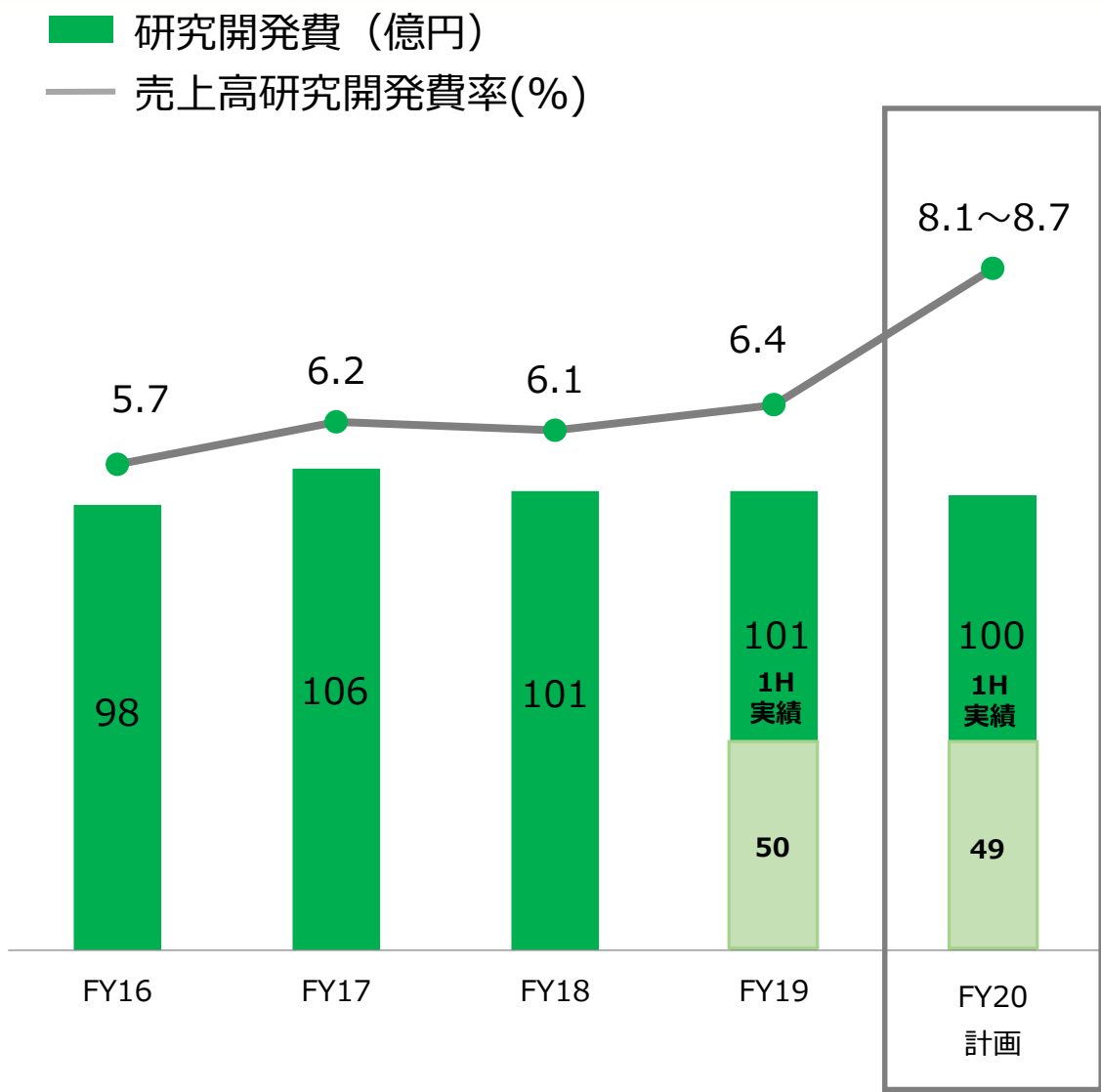
四半期推移《セグメント別損益》

単位：億円		FY19					FY20		FY20 2Q - FY19 2Q		FY20 2Q - FY20 1Q	
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	増減	%	増減	%
光源事業	売上高	154	149	143	137	585	104	105	▲43	▲29.1	1	1.4
	営業利益	19	16	10	13	60	4	1	▲14	▲88.5	▲2	▲59.9
	営業利益率 (%)	12.5	11.2	7.3	10.1	10.3	4.6	1.8	▲9.4P	—	▲2.8P	—
光学装置	売上高	89	91	66	114	361	71	92	1	1.1	20	28.9
	営業利益又は 営業損失 (△)	1	2	▲1	▲7	▲5	0	0	▲1	▲62.2	0	6.5
	営業利益率 (%)	1.2	2.4	▲2.0	▲6.8	▲1.6	1.1	0.9	▲1.5P	—	▲0.2P	—
映像装置	売上高	137	180	162	127	608	54	79	▲100	▲55.8	25	47.0
	営業利益又は 営業損失 (△)	▲0	7	5	▲3	9	▲12	▲6	▲13	—	6	50.6
	営業利益率 (%)	▲0.2	4.0	3.4	▲2.7	1.5	▲23.9	▲8.0	▲12.0P	—	15.8P	—
その他	売上高	7	9	7	9	33	6	5	▲4	▲44.4	▲1	▲17.0
	営業利益又は 営業損失 (△)	0	▲0	0	▲0	0	▲0	0	0	—	0	—
	営業利益率 (%)	2.5	▲0.0	3.5	▲1.4	0.9	▲3.6	0.1	0.1P	—	3.7P	—

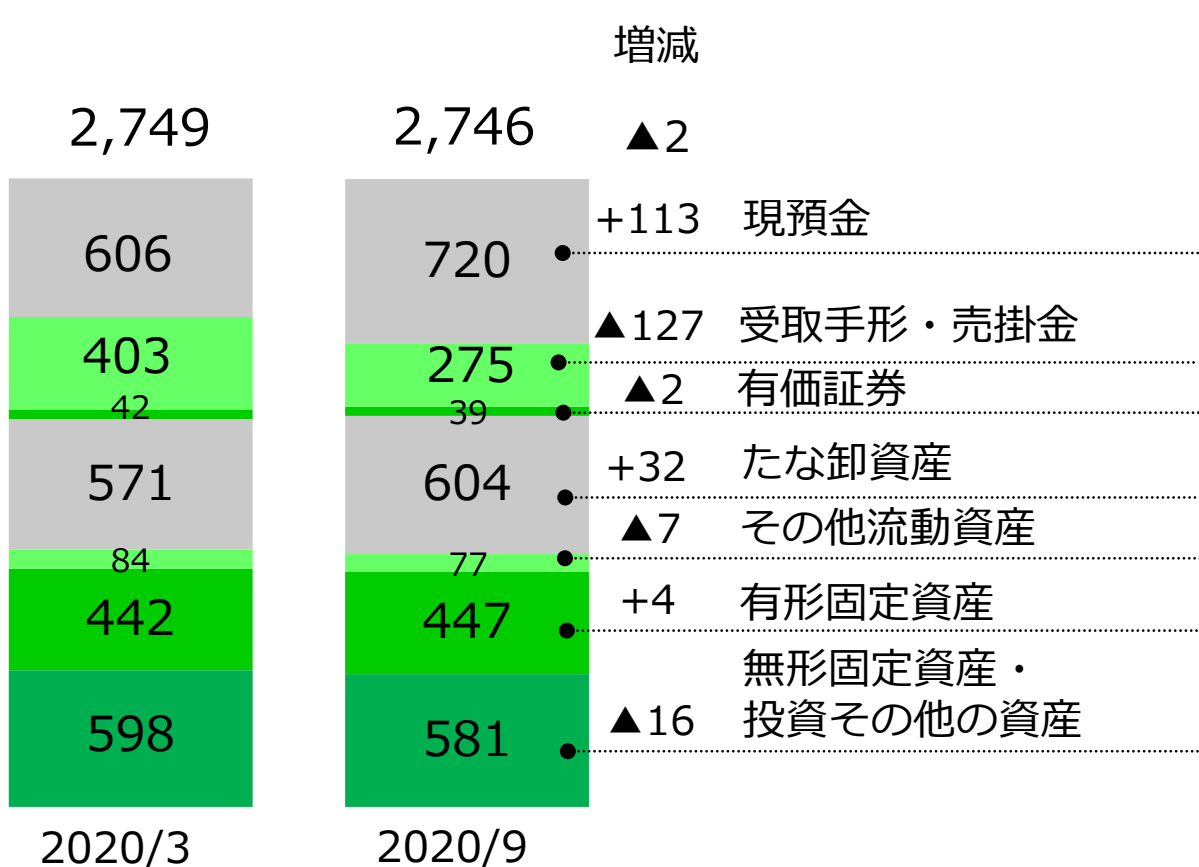
地域別売上高比率



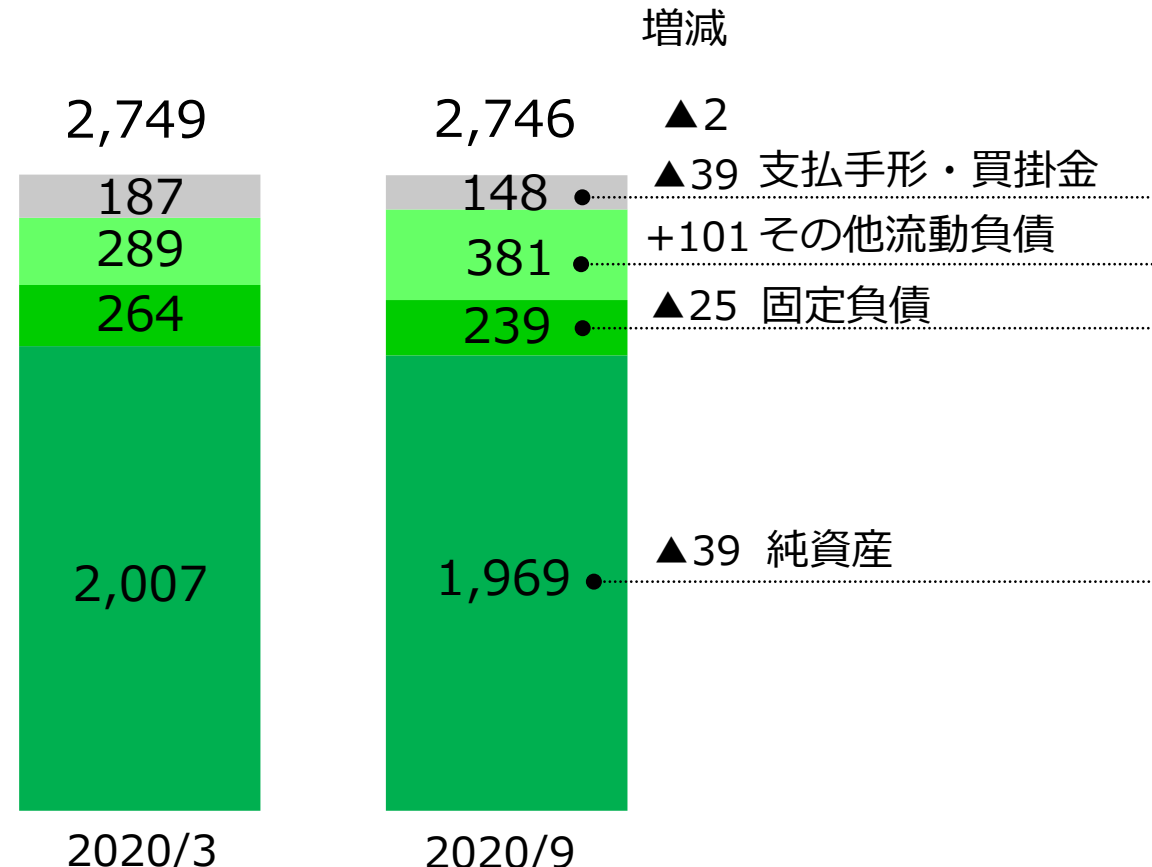
研究開発費／設備投資額・減価償却費



◆ 資産 (億円)



◆ 負債・純資産 (億円)

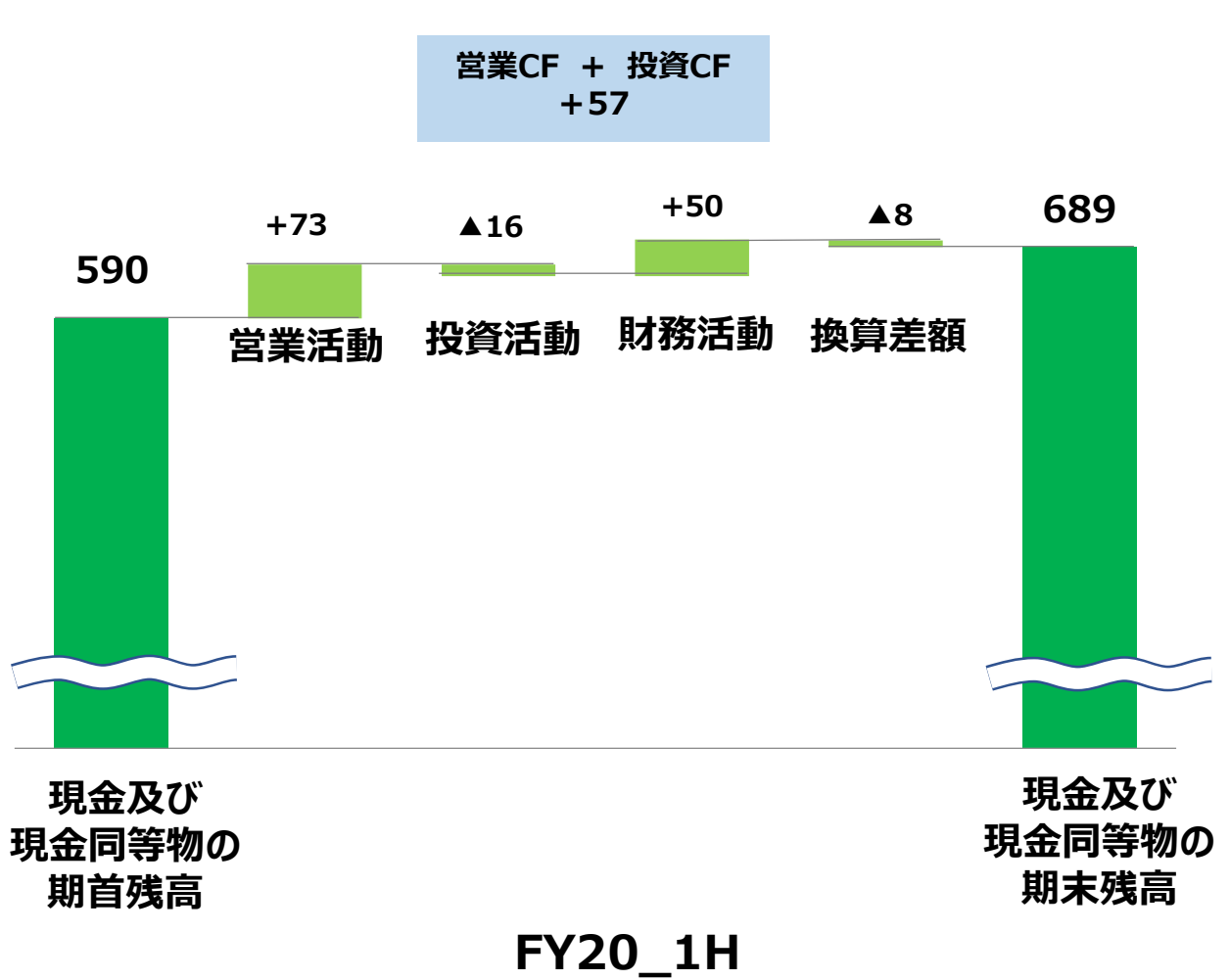
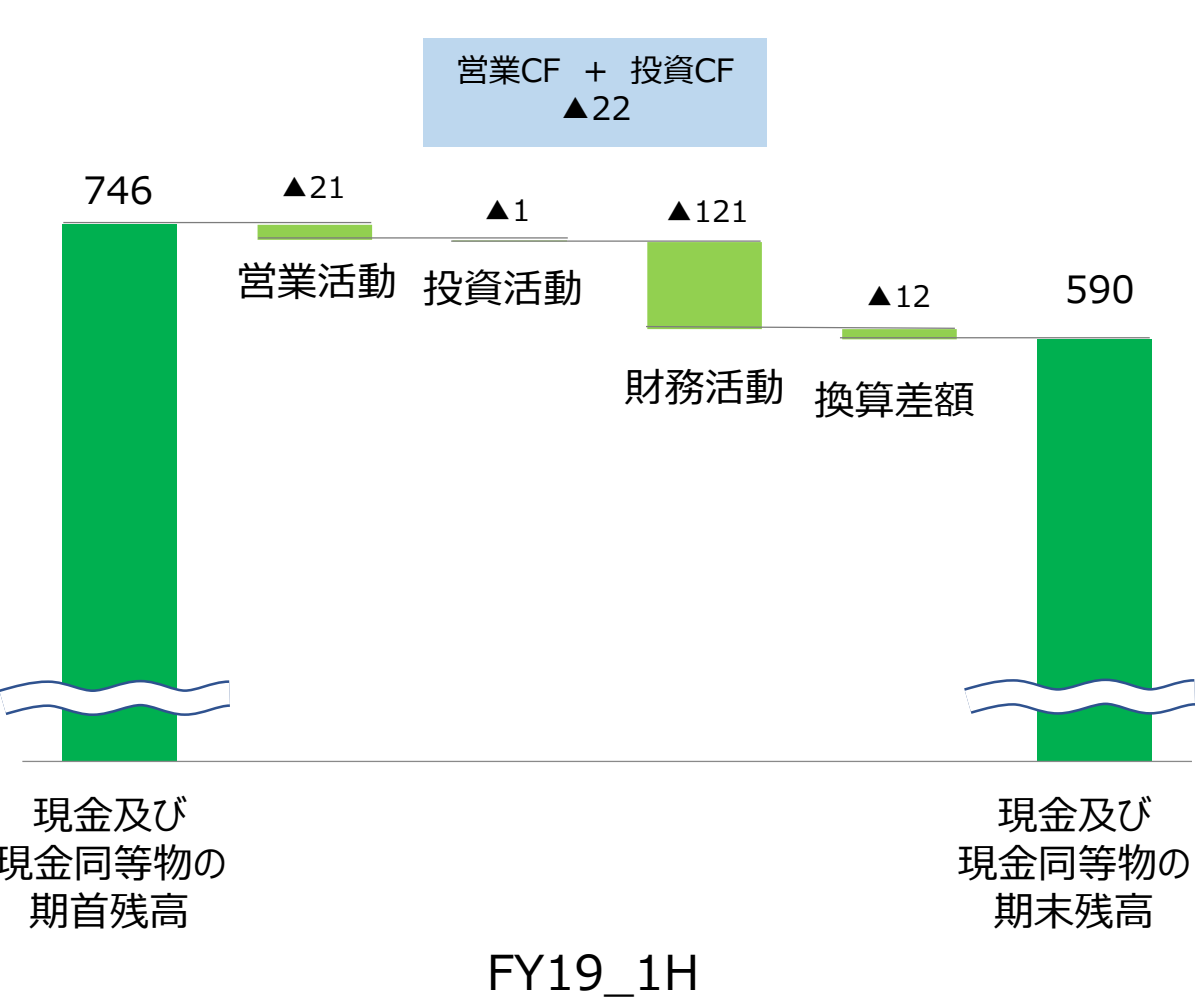


●回転月数 (ヶ月)	2020/3	2020/9
売上債権	3.0	3.9
たな卸資産	4.5	6.8

●自己資本比率 (%)	2020/3	2020/9
	73.0	71.6

キャッシュフロー

(億円)



AI	Artificial Intelligence	人工知能
BGA	Ball Grid Array	半田ボールを格子状に並べた電極形状をもったパッケージ基板
COF	Chip on Film	フレキシブル基板などのフィルム基板上へICチップを直接実装すること
CoO	Cost of Ownership	導入コストやメンテナンスコストなどを含めた、使用者（オーナー）が負担するコスト
CPU	Central Processing Unite	中央演算処理装置
DI	Direct Imaging	マスク等を使わず、直接描画する露光方式
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
FPD	Flat Panel Display	フラット・パネル・ディスプレイ
GPU	Graphic Processing Unit	画像を表示するために必要な計算を行う半導体装置
IoT	Internet of Things	モノのインターネット
LaPH	Laser Phosphor	蛍光体レーザー
OA	Office Automation	オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること
OLED	Organic Light Emitting Diode	有機EL
RGB	Red Green Blue	光の3原色である赤（Red）、緑（Green）、青（Blue）の頭字語
TNO	The Netherlands Organization of Applied Scientific Research	オランダ応用科学研究機構
UV	Ultraviolet	紫外線
5G	5 th Generation	第5世代移動通信システム

USHIO

本資料に関するお問い合わせ先
ウシオ電機（株）経営企画部
(03) 5657-1007
ir@ushio.co.jp
<https://www.ushio.co.jp/jp/>